

2016 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本呼吸器学会

正式名称

呼吸器科プロフェッショナルの育成を目的とした e-learning cloud の構築

医学教育事業の概要

新専門医制度に対応した呼吸器専門医取得のための教育コンテンツ配信
呼吸器内科医の生涯教育としての Web トレーニング
メディカルスタッフ用、MDD（多分野連携討議）用教育資材作成等

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師、薬剤師、看護師、その他（学生、大学院生）
対象となる医療関係者の想定人数：10,000 人

医学教育事業の必要性

新専門医制度の導入にともない日本呼吸器学会専門医のカリキュラムの変更ならびに認定基準の見直しが必要となり、本システムの導入によりコアカリキュラムの変更や認定基準の見直しが柔軟かつ迅速に対応可能となる。専門医取得ならびに取得後の生涯教育上で重要・必須の教育資材を提供することで、質の高い呼吸器診療、教育、研究を実践するため、多職種・多分野連携ができる人材を養成する。さらに、男女共同参画を实践するためには女性医師のキャリア形成、復職支援が喫緊の課題であり、本企画はこれらの実現をする上で必要不可欠な事業となる。これにより真の呼吸器科プロフェッショナルの養成を目指す。

医学教育事業の目的

1. 新専門医制度に対応した呼吸器専門医取得のための教育システムを on time に策定可能
2. 生涯教育を通じて呼吸器科医としての質を維持・向上ができる
3. メディカルスタッフの教育を通じてチーム医療の質の向上に繋がる
4. MDD（多分野連携討議）により質の高い診断と治療方針決定ができる
5. 男女共同参画の意味とお互いの立場や環境の重要性を理解し、共に助け合うことで、働きやすく、そして無理なく楽しく仕事ができる職場環境の整備が可能となる。さらに、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）がとれる。

医学教育事業の計画・方法等

1. 新専門医制度に対応した呼吸器専門医取得のための教育コンテンツの配信
教育委員会と 10 学術部会で教育コンテンツを作成する
2. 呼吸器内科医の生涯教育としての Web トレーニング
教育委員会と 10 学術部会と生涯教育講演会長が作成し、専門医資格者に、更新に必要な学習内容を提供する。
3. メディカルスタッフ用のコンテンツも作成しチーム医療の教育資材とする
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会と共同で作成し、受講者に配信する。
4. MDD 用の教育資材
特発性間質性肺炎の診断一致率が低い問題の解決のため、MDD（multi-disciplinary discussion：多分野連携の協議）を行うための教育用コンテンツを作成し、さらに臨床・画像・病理情報をクラウド上で共有した web MDD を間質性肺炎に精通した各専門医とともにに行い効率的な診断アプローチを遠隔地からでも可能とする。（びまん性肺疾患学術部会（DLD）で普遍的コンテンツを作成）
5. 男女共同参画とこれを取り巻く法制度、環境などを周知するためのコンテンツ作成
1) 女性医師に対する後方・啓発活動、2) 男性の意識改革（イクボス、育児介護支援など）、3) 出産・育児、老親介護などにかかわる医師への支援制度（男女共通）、4) 女性就業環境の整備と支援制度・体制づくり、5) 呼吸器内科女性医師バンクシステム作成（男女共同参画委員会でコンテンツを作成）

医学教育事業の成果に対する情報共有について

学会ホームページへの掲載ならびにニュースレター配信にて成果を会員向けに発信する。